

平成27年度人事院政策評価結果

政策所管部局

人材局・公務員研修所

<p>政 策</p>	<p>2 国際化に対応し得る行政官の育成</p>
<p>目 標</p>	<p>(政策目標) 行政課題の国際化が進展し、各府省における人材育成ニーズも多様化する中で、我が国の国益を実現し国際社会に貢献できるような高度な能力を有する人材を育成するため、外国への派遣研修を適正に実施するとともに、行政研修においても国際化に対応した研修機会の提供に努める。</p> <p>(具体的取組) (1) 行政研修（課長補佐級）国際コースは、昨年度12カ国13名の外国人研修員の参加を得て国際環境類似の状況下での研修機会を提供することができた。今年度は、さらに実践的な研修機会とすべく、外国人研修員の数を前年度より増加させるとともに、各府省の第一線人材の研修参加を促す。 (2) 行政研修（課長補佐級）海外派遣研修を継続して企画・実施する。また、初任行政研修における行政を巡るグローバル化に対応するための研修科目や、係員級特別課程での英語学習を引き続き実施するなど、行政研修において国際化に対応した研修科目を着実に実施する。</p>
<p>具体的取組結果</p>	<p>《取組内容1》行政研修（課長補佐級）国際コースの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政研修（課長補佐級）国際コースでは、従来から参加していた駐日在外公館職員（9名）及び米国のマンスフィールド研修員（1名）に加え、各府省のカウンターパートとなり得る東南アジアや中央アジア諸国の行政官で、日本の大学院に留学中の者（9名）の計13カ国19名の外国人研修員が参加した。また、各府省からは、海外大学院の留学経験や在外勤務経験を有し、現在、国際関連業務や政策の企画・調整の第一線で活躍する人材が参加した。 本研修は、日本人研修員のみが参加する通勤研修（日本人が陥りやすい英語表現における間違い等について学ぶことを中心とした講義・演習、1日）及び日本人・外国人研修員双方が参加する合宿研修（3日間、すべて英語）で実施した。合宿研修では、ファシリテーションと会議マネジメントについての講義・演習や、5～6人のグループに分かれ、各人が取り組んでいる業務上の課題等についてプレゼンテーションとディスカッションを行う個別政策研修などを実施し、英語での意思伝達及び説得能力の向上に取り組んだ。 <p>《取組内容2》行政研修（課長補佐級）中国・韓国派遣コースの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政研修（課長補佐級）中国派遣コースは、平成17年度から中国国家行政学院の協力を得て毎年1回実施していたが、平成24年度以降は中国側の事情により実施できなかった。今年度は、中国政府の協力によって4年ぶりの実施が可能となった。 研修員は、派遣に先立ち、予め事前研修において日中関係の現状、中国の政治動向等について学んだほか、駐日中国大使館を訪問し、大使館員と意見交換を行った。中国訪問（8日間）中は、北京市、曲阜市、日照市、青島市で、政府機関や産業施設の見学・職員との意見交換等を実施した。帰国後、事後研修において、研修成果の発表・研修員間の意見交換を行った。 行政研修（課長補佐級）韓国派遣コースは、韓国中央公務員教育院（COTI）の協力を得て、平成18年度から毎年実施している。今年度も同様にCOTIの協力の下、実施した。 研修員は、派遣に先立ち、予め事前研修において日韓関係や韓国経済の現状と課題について講義を受けた。韓国訪問（5日間）中は、ソウル郊外のCOTIで韓国の行政官との意見交換等を行ったほか、世宗市や非武装地帯（DMZ）を見学し、行政の実情や課題について考察した。帰国後、事後研修において、研修成果の発表・研修員間の意見交換を行った。 <p>《取組内容3》その他の研修におけるグローバル化対応科目の実施</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任行政研修において、国際的な業務の最前線で実際に活躍した経験を有する講師から経験に基づく講義を聴く「国際行政の現場」、及び、各国駐日大使館に勤務する外交官から国際社会において我が国が今後果たすことが期待される役割等について聴く「日本への期待」（英語での講義・意見交換を含む。）を実施した。 ・ 旧Ⅱ種・Ⅲ種試験等により採用された係員級の職員を対象とする行政研修（係員級特別課程）において、研修員が今後、英語能力が求められる業務に当たることを想定し、英語学習の効率性・モチベーションの向上を目的とした科目（講義及び演習）を実施した。 ・ 課長補佐級リーダーシップ研修において、日中関係や我が国が今後とるべき外交政策の方向性について考えを深めることを目的として、「駐日中国大使館職員との意見交換」を実施した。
測定指標（ある場合に記入）	
達成度の評価	<p>《評価》目標達成</p> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取組内容1について <p>行政研修（課長補佐級）国際コースでは、駐日在外公館職員やマンスフィールド研修員に加え、各府省のカウンターパートとなり得る東南アジアや中央アジア諸国の行政官計19名が参加し、外国人研修員の数が前年度（13名）より増加したことに加え、質の面でも多様化がみられた。また、日本人研修員も国際関連業務や政策の企画・調整を担当する部署の職員など第一線で活躍する人材の参加が得られた。このような研修員構成で英語によるプレゼンテーションやディスカッションを実施し、様々な国籍・出身組織の外国人研修員と各国の重要課題について討論することで、実践により近い環境が実現された。これにより、英語によるコミュニケーションの訓練のみならず、国際的な現場での振るまいや多様なものの見方への気付きを得させるなど、現在又は今後国際行政の現場で勤務する人材の育成の一助となる研修を実施できた」と評価した。</p> ・ 取組内容2について <p>中国・韓国への派遣研修において、研修員に、現場訪問や講義、意見交換等を通じて、中国・韓国の現状について知り、今後の日中・日韓関係や我が国の外交政策について考える機会を提供することができた。これにより、我が国の国益を実現し国際社会に貢献できる人材を育成する一助となったものと評価した。</p> ・ 取組内容3について <p>初任行政研修においては、研修員に、我が国が国際社会においてどのような役割を期待されているかを考える機会を提供した。係員級特別課程においては、英語を学ぶことへの興味を高められるようなプログラムを提供した。課長補佐級リーダーシップ研修においては、日中関係や外交課題について考える機会を提供した。これらの科目を通じて、国際化に対応し得る人材育成の一助となったものと評価した。</p> <p>以上を踏まえると、平成27年度における目標は達成された。</p>
施策の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組内容1について <p>本研修は、日本人研修員と外国人研修員が同じ立場で、研修という環境で英語によるプレゼンテーション及びディスカッションを行ったり、合宿研修の特色を活かして課外でも交流することなどを通じて、日本人研修員に英語でのコミュニケーションに必要な能力や国際社会で活躍するために不可欠な資質をかん養することを目的としている。各府省においてグローバル人材へのニーズがますます高まる中で、海外留学や在外勤務の経験があり基本的な英語力を有している者を対象として、実際に各国のカウンターパートと対</p>

等に渡り合うための実践的なトレーニングを行う場への需要は大きいと考えられる。したがって、人事院が駐日在外公館やJICAなどとの繋がりを活かして、多様な出身国・所属組織の外国人研修員の参加を得て実施する本研修は意義のあるものであり、今後とも継続していきたい。

・取組内容2について

中国・韓国は、我が国と政治的・経済的に密接な関係を有する重要な隣国である一方で、日中・日韓の二国間には様々な課題も山積している。各府省の行政官は、今後、それぞれの所管行政において、この両国と関わっていくこととなるが、実際にこれらの国々を訪問し、その実情を直接見聞きするとともに、両国の行政官等と意見交換を行うことは、これらの国々を理解するとともに、我が国の国益に適う政策を立案するために極めて重要である。しかしながら、各府省においては、このような現場体験を職員に提供することは必ずしも容易ではないことから、海外派遣研修に長い経験を有する人事院が行政研修の一環としてこれらの研修を実施することは、意義のあるものと考ええる。

特に、今後ますます世界の中でのプレゼンスが高くなることが確実である中国については、今回4年ぶりに派遣を再開でき、来年度以降も継続の可能性が高くなったことは意義のあることと考える。

・取組内容3について

初任行政研修については、総合職で採用された直後の者を対象とした研修であり、将来的に企画立案業務に従事することが想定される者に、早い段階から国際的な業務に対する関心を高めさせ、国際業務に欠かせない英語の必要性について実感させることが必要との考え方で、これらの科目を実施している。初任行政研修における国際化に対応した科目の必要性は今後ますます増大しているとの認識に立って、来年度の科目を検討する必要がある。

行政研修（係員級特別課程）においては、研修員が英語学習に抱いていた固定観念を修正し、英語学習のモチベーションを上げるためのプログラムとなっている。係員級特別課程の研修員は、将来、国際的な業務に就く機会もあると考えられ、この科目を通じて本人の選択肢を広げることにも資することから、今後も継続して実施していきたい。

課長補佐級リーダーシップ研修は、将来本府省幹部職員として行政運営の中核を担うことが期待される者に対し、14日間に亘って行政・国家・リーダーシップの在り方を考えさせるもので、その一環として中国政府職員との意見交換を毎年実施している。この科目は、中国派遣研修と同様、重要な隣国である中国の外交官との意見交換により相互理解を深めるとともに、国際的な視野を有する将来の幹部職員を育成する点からも意義の大きいものであり、今後も継続して実施していきたい。

今後の施策に反映させるべき事項

・取組内容1について

国際コースに各府省の第一線人材及び多様なバックグラウンドを有する外国人研修員の参加が今後も得られるよう、今回の実施結果や研修員の意見も踏まえ、派遣元となる各府省、駐日各国公館及びその他の関係機関に対して、同研修の特色及び意義について理解を更に促しながら、研修員の参加について引き続き積極的な働きかけを続けていくこととしたい。

・取組内容2について

中国派遣研修については、今回初めて中国外交部の協力の下実施した。プログラムは充実したものであったが、研修員からは訪問先の職員等との意見交換の時間がもっとあればよかったとの意見が出されており、来年度はその方向で先方と調整することとしたい。

韓国派遣研修については、引き続き、COTIとの協力を前提に、実施することとしたい。

・取組内容3について

初任行政研修については、英語による意見交換の機会を増やすなど、よりグローバル化に対応した科目を増やす方向で検討する。

	行政研修（係員級特別課程）の英語学習及び課長補佐級リーダーシップ研修の中国外交官との意見交換については、引き続き実施することとしたい。
有識者の意見	○ 国際化に対応し得る行政官に必要なスキルは英語である。国際化に対応し得る行政官を育成するためには、研修で育成していく以外に、英語能力のある者を採用すること、学習意欲のある職員を海外に派遣していくことが大事である。